

美作道沿いの古代寺院

— 美作から西播磨の古代寺院 —

寺岡洋

前号に続いて美作道沿いの古代寺院を紹介します。帰りが家に近い方が楽なので、西方に位置する古代寺院から順に東に巡るコース。

美作道は古代山陽道の草上駅家（くさかみのうまや）（今宿丁田遺跡：姫路市今宿）から分岐すると考えられている支路で、美作国府（岡山県津山市）までつながる。この西播磨から美作への道は、日本海沿岸の出雲・伯耆・因幡への主要なコースでもあった。飛鳥・難波・平城京から日本海側へ向かうには、山陰道より地理的にほど近い。

『播磨国風土記』にも出雲・伯耆・因幡との交通を裏付ける記述があり、また、古代寺院から出土する遺物・瓦からも確認できる。蓮華文帯鷲尾（しひ）、珠文帯複弁六葉（次頁右欄下図）・八葉蓮華文軒丸瓦、顎部施文軒平瓦などで、瓦のネットワークが形成されていた。瓦のネットワークは、造寺集団のつながりをモノで表している。

この道は、「美作道」という官道として駅家などが整備されるよりずっと古くから、道として機能していたのは言うまでもない。

美作国

美作国は、和銅六年（713）、備前国北部六郡を割いて新しく設置されたもので、東から真嶋・大庭（おおば・おおにわ）・久米・苦田（とまた）・勝田（かつまた）・英多（あいた）郡の6郡からなる。

■五反（ごたん）廃寺

12月7日(金)、快晴。
糸子道久世(くせ)ICで下
り、2kmばかり西へ、久世
中学校の東約200m周辺。

五反廃寺遺跡の位置は美作国府より西になるが、道は延びていた。白猪屯倉（しらいみやけ）の有力な比定地の一つであり、推定寺域北辺に「白猪屯倉遺跡碑」が立つ。



所在地は真庭市三崎（旧真庭郡久世町）。律令制下の大庭郡大庭郷になる。低い丘陵の先端部に位置し、南は旭川とその支流・目木（めぎ）川が合流する平野部を見下ろせる。目木川北岸。

寺跡の確認調査がされており、寺域は1町四方と推定されるが、伽藍配置は不明。瓦片が残る。中学の北にある墓王寺境内に礎石が1個ある。

高句麗新羅様式の軒丸瓦

五反廃寺で強い印象を与えるのは軒丸瓦である。創建瓦は、周縁に珠文を配する単弁八葉蓮華文（1A類）で、内区の文様は飛鳥・坂田寺の単弁蓮華文に通じるとも指摘されている（左図）。

年代は7世紀後半。周縁に珠文を配する軒丸瓦は西播磨にも見られ、統一新羅の瓦では腐るほどある。高句麗・統一新羅の軒丸瓦は、帝塚山大学考古学研究所の附属博物館（奈良市帝塚山）に多く展示されている。

また、周縁に輻線文（ふくせんもん）を有する一群（1B類）があり、畿内の渡来系氏族の寺院によく使用されるとも記される（図版・写真では輻線文が鮮明でない）。



軒丸瓦（V型式）

加古川流域では、河合・
殿原（とのはら）・中西・西条・野口廃寺などで、
北白川廃寺（山背）につながる輻線文がみられる。

軒丸瓦のIV・V・VI型式は、亀田氏により「高句麗新羅様式」と名付けられた、列島では類例のない文様をもつ。IV型式(上図)の内区の文様は、紡錘形の蓮の実を並べた蓮蓄文(れんらいもん)と呼ばれる高句麗系の文様を持ち、その外側に忍冬文状の文様が配された極めて特異な文様である。V・VI型式の軒丸瓦も一見して異国風とでも言うか、列島では見慣れぬ文様が目につく。

軒平瓦「型式も新羅系とされ、五反廃寺の造立

集団は、新羅、あるいは列島内の有力渡来系集団と関係の深い渡来系集団・氏族と考えられる。

白猪屯倉について

備前の北部に位置する大庭郡になぜ渡来色濃い古代寺院が建立されたかについては、白猪屯倉と関連するであろう（屯倉はさまざまに表記されており、以後、ミヤケと片仮名を使用する）。

ミヤケの設置、経営には渡来系集団が関わることが多く、五反廃寺の造立には彼らの中の有力者が主導したものと考えられる。

白猪ミヤケに関しては、欽明紀16年（555）から敏達紀12年（583）まで、7ヶ条の記事がある。所在地については諸説あり確定していないが、大庭郡は有力な比定地である。

時代が下るが、『続日本紀』天平神護二年（766）条と神護景雲二年（768）五月条に
「美作国人從八位下白猪臣大足、賜姓大庭臣」
「美作国大庭郡人外正八位下白猪臣証人等四人、賜姓大庭臣」

とあり、「白猪臣（しらいのおみ）」という白猪ミヤケに関連すると思われる氏族が大庭郡にいた。白猪ミヤケに派遣されたのは王胆津（欽明三十年（569）、白猪史（ふひと）に改姓）であり、白猪臣氏は在地豪族化したものであろうか。王胆津は王辰爾の甥とされ、白猪史からさらに葛井連（ふじいのむらじ）に改姓（720年）されている。

■久米（くめ）廃寺（県史跡）・額部施文軒平瓦

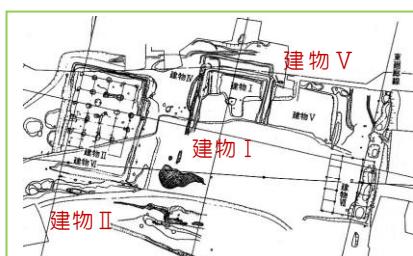
国道181号線を東へ、道の駅久米の里の西隣。廃寺跡は中国道の高架下になる。

津山市宮尾（旧久米郡久米町）。久米郡久米郷。東約300mに久米郡家（ぐうけ）推定地の宮尾遺跡が存在する。中国道の工事に伴い発掘調査された（上図）。

寺域は、東西130m×南北110m程と推定される。伽藍配置は塔を中心に東に金堂、西に講堂を近接して配し、回廊をめぐらす特異な様式。

塔（建物I）基壇：一辺約11.2m。心礎が原位置に残る由。古い写真では露出している。

心礎：東西2.1m×南北1.5m。舍利孔あり。



金堂（建物V）基壇：東西16m×南北10m以上。基壇の痕跡が残っていたようだ（見損なう）。

講堂（建物II）基壇：東西約15m×南北21m、桁行5間×梁間4間。建物VIと重複する。

建物III：桁行6間×奥行（梁間）2間。塔の東50mにある掘立柱建物。

創建年代は7世紀後半で、後に整備されている。出土遺物は、瓦類・塑像・博仮（せんぶつ）・円面鏡・青銅製輪・金箔・石帶・水晶など。塑像は、如来像（螺髪）・菩薩像（数軀分）・天部など。塑像の作りはよいようである。

軒丸瓦は4型式あり、創建瓦は川原寺式軒丸瓦に似る線鋸歯文縁複弁八葉。軒平瓦は6型式あり、軒平瓦I類は無文の軒平瓦（平瓦状）で、顎とはいえないような顎面に4条の突帯を貼り付けている（右図）。



●津山市久米歴史民俗資料館（無人）

久米公民館の南側にあり、鍵を公民館で保管される。久米廃寺の資料あり、必見。土日休館。

●津山郷土博物館 津山城を背景にして建つ。

●津山弥生の里文化財センター

銅鏡（佐波理鏡？）を2個見せていただいた。

■美作国分寺跡（国史跡）

津山市国分寺。勝田郡河辺郷。江戸時代に建てられた大きな国分寺が建つ。山門前に礎石が立てられている。この国分寺の西側一帯が美作国分寺跡になるが、地表にそれらしき遺構は見られない。周辺の土地買い上げが進んでいる。

池の内遺跡

池の内遺跡は、湯郷温泉（美作市）の隣。古代から温泉が有名であったようで、勝田郡塩湯郷になる。



池の内遺跡から珠文帯複弁六葉蓮華文軒丸瓦（右図）が採集されているが、場所を特定できないので、遠望のみ。新羅系の珠文帯をもつ複弁六葉蓮華文軒丸瓦は、美作道沿いの奥村廃寺→栗栖廃寺→越部廃寺→長尾廃寺→池の内遺跡の順に瓦の范（木型）が移っていく。

■櫛原（ならばら）廃寺

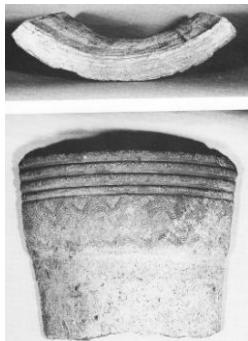
12月8日（土）曇後晴、風あり冷える。湯郷から吉野川、梶並川沿いに約3km上流。一帯は広い。美作北小学校のすぐ東で、美作市櫛原中（旧英田郡美作町）。英多郡櫛原郷に比定される。

集落の南に建つ薬師堂の基礎に礎石（径1m程）4個が使用されている。かつて塔心礎も存在したそうだ。圃場整備に伴う発掘調査により、2棟の礎石建物と瓦窯などが確認されている。

建物I 基壇：東西約30m×南北約15m
桁行5間×梁間4間。金堂か講堂と推定。

建物II 基壇：一辺約10.5m。塔と推定。薬師堂の東側の畠の段は基壇の名残りに見える。

出土遺物は瓦類・如来像・須恵器・土師器など。軒丸瓦：2型式5種。土居廃寺と同范あり。軒平瓦は瓦当面に三重弧文（上図の上段）、額部の施文は3条の凸帯と波状文（上図の下段）。



■江見（えみ）廃寺

美作市藤生（ふじゅう）（旧英田郡作東町）。英多郡英多郷。姫新線美作江見の北約1km。江見保育園の北側。吉野川右岸になるが、西は山、東は川が迫る立地である。上流に大海廃寺、さらに上流に今岡廃寺（旧英田郡大原町）が位置しており、因幡への主要な交通路であったのであろう。南西約400mに英多郡家推定地の高本遺跡（中国自動車道による調査）が存在する。

礎石（上図）がぽつんとゲートボール場の隅に放置される。長径約2m×短径約1.5m、柱座は直径約50cm。道路工事により礎石の西、数十m地点が調査され、多量の丸平瓦が出土したが遺構は検出されなかった。

軒丸瓦は3型式。櫛原廃寺・土居廃寺・竹田廃寺・大海廃寺と同范（木型が同じ）の瓦が見られ、英多郡内の寺院間のつながりの強かったことが窺える。



軒平瓦（左欄下図）は瓦当面を欠くが、凸面額部に六条の波状文を二段にめぐらし、その他には細かい斜格子目叩きを全面に施す。白鳳時代後期に創建、平安時代前期頃まで存続したと推定。

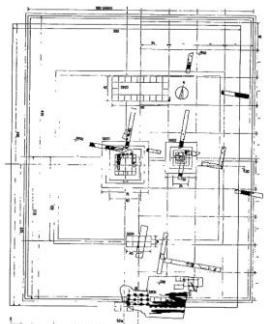
■大海（だいかい）廃寺

江見廃寺から県道5号線（作東大原線）を吉野川沿いにおおよそ6km北上。吉野川右岸の山手集落の中のごく小さい薬師堂の前に心礎が残る（上図）。立地は緩やかな傾斜地。たまたま薬師堂の場所をたずねた人は、自宅が推定中門跡に家が建つとのことだった。美作市山手（旧英田郡作東町）。英多郡吉野郷に比定。圃場整備にともなう発掘調査が行われている。



寺域は、南北136m、東西109mと推定され（右図）法起寺式の伽藍配置だが、金堂が中軸線上に建つ。

金堂は、東西3間×南北2間分の礎石が確認され、本来は桁行5間×梁間2間の東西棟と推定。中門跡に建つお宅の敷地で、現在は空地で残されている。礎石が残る。南と西に段差あり。



塔基壇は一辺約10.8m。心礎は、長径1.7m×短径1.1m、厚さ60cm、砂岩製、原位置を保つ。舍利孔：直径21cm、深さ13cm。

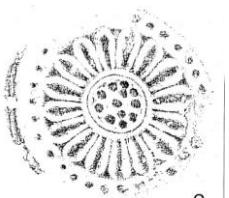
南門は、桁行3間（8.67m）×梁間2間（4.33m）の掘立柱建物で、側面に築地（幅2.16m）が取付く。南限施設に塀と築地の2時期がある。講堂、中門の規模は不明。

創建は7世紀後半ころで、8世紀頃に大規模に改作が行われ（寺域が二重に描かれている）、9世紀頃まで存続したと推定。



出土品は、軒丸瓦・軒平瓦・蓮華文帯鷲尾・水煙・硯・須恵器・土師器など。

軒丸瓦は4型式に分類され、第3類（細弁十六葉 右上図）は長尾廃寺（右下図）と類似する。



軒平瓦は7型式に分類される。第

1類は、瓦当は素文（文様がない）で、顎部に四重弧文風の凸帯がみられる（右図）。

蓮華文帯鷲尾（右下図）

大海廃寺では蓮華文帯鷲尾の出土が特筆される。伯耆の斎尾（さいのお）廃寺と西播磨を結ぶルート上に位置したことが明らかである。軒平瓦の顎部にわざわざ文様を施したり、長尾廃寺の軒丸瓦とよく似た文様を採用するなど、造寺集団は西播磨とのつながりが美作道を介して極めて強いことが窺える。



今岡廃寺 吉野川を12~3km上流に走れば今岡廃寺が美作市今岡（旧英田郡大原町）に位置する。英多郡讃甘（さのもの）郷。顎部施文軒平瓦が出土しているが、場所を特定できなくパスした。

●作東歴史民俗資料館（無人）

江見の町を見下ろす丘の上に欧風の自立つ建物群があり、その中の北端に建つ。途中、表示は皆無。教育委員会で鍵を借りて入館できる。江見廃寺・大海廃寺の軒瓦あり必見。土日休館。

竹田廃寺（？） 姫新線・国道179号線沿いに立地。美作市竹田（英田郡作東町）、英多郡江見郷。軒丸瓦1点（江見廃寺・大海廃寺と同范）、丸瓦・平瓦各1点のみ収集されている。

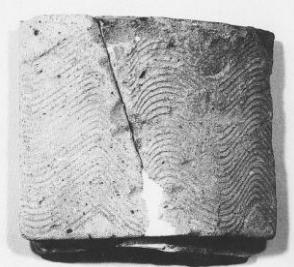
土居廃寺

姫新線・国道179号線沿いで、かつての土居宿。美作市土居（英田郡作東町）。英多郡江見郷。

軒丸瓦2個、軒平瓦1個、鷲尾1個が1926

年に採集されている。軒丸瓦には、江見廃寺・櫛原廃寺と同范あり。また、忍冬蓮華混合文と名付けられた、複弁四葉・単弁一葉・忍冬文一葉というなんとも変わった文様の軒丸瓦もある。

軒平瓦は四重弧文で、顎面全面に29条の櫛描波状文のみが施文されており、凸帯は見られない。施文の一種であろうか。鷲尾は鰐部破片。



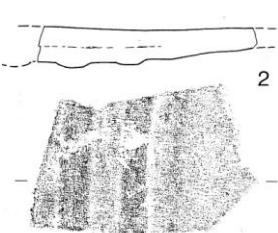
■早瀬（はやせ）廃寺

土居宿を過ぎると美作と播磨の国境、万能峠。JR姫新線上月駅の東、1km強、国道373号線沿い。佐用町早瀬の集落の東寄り、早瀬公民館東側の木の下に心礎が残る。『播磨国風土記』では、讃容郡（さよのこほり）速湍里（はやせのさと）、背後の白山神社は「速湍の社」に比定される。『和名抄』では速瀬郷。佐用川北岸、南面する段丘上に位置する。



塔心礎（右上図）は、不整形な200cm×180cm、柱孔径18cm、深さ8cm（水を汲出して写す）。さわると白蛇のたたりあるとの伝承があり、動いていない可能性があるとも。

周辺は圃場整備されているが、寺院の遺構は確認されなかった。町道工事や畠から瓦が採集されており、顎部施文軒平瓦が2点ある（右図 顎部に削出し凸帯）。



山麓で瓦窯が5基見つかっており、軒丸瓦・軒平瓦・鷲尾等が出土している。顎部施文の軒平瓦も含まれる。創建年代は、瓦から7世紀末~8世紀初頭と推測されている。

早瀬廃寺は推定美作道から外れるが、土居廃寺・竹田廃寺（？）と姫新線沿いに古代寺院が建立されており、このコースがメインルートであった可能性が高いようだ。



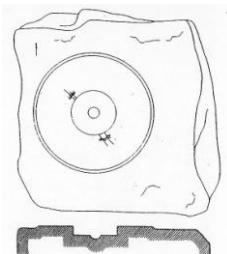
■長尾廃寺

佐用川沿いに上流へ。佐用川北岸の台地上に位置する。佐用高校北側。

塔心礎（右図）の顯彰碑が立てられている。佐用町長尾塔の石。

前回、写真・図版が無くて不評だったので、今回、早瀬廃寺と長尾廃寺の写真・実測図を載せます。

美作の古代寺院についての考察はいずれやりたいと思ってます。



■引用・参考文献

図録『美作の白鳳寺院』津山郷土博物館 1992年
湊哲夫・亀田修一『吉備の古代寺院』

吉備人出版 2006年

『古代寺院からみた播磨』

播磨考古学研究集会記録集 2003年

『西播磨の古代寺院と蓮華文帯鷲尾』

たつの市立埋蔵文化財センター 2007年

「五反廃寺」

『岡山県史』第18巻・考古資料 1986年

『五反廃寺』久世町教育委員会 1997年

『五反廃寺 町道五反線改良工事』

久世町教育委員会 2000年

亀田修一「ある高句麗系瓦—美作五反廃寺出土例

について—」『肥後考古』8号 1991年

栄原永遠男「白猪・児嶋屯倉に関する資料的検討」

『日本史研究』160 1975年

狩野 久「白猪屯倉の設置事情」

『京都橘女子大学 研究紀要』第27号 2001年

津川千恵「播磨国の瓦について」

『兵庫県の歴史』28 1992年

『歴史の道調査報告書 第4集 美作道』

兵庫県教育委員会 1994年